

令和改訂版

いま高岡は  
万葉に燃えている

富山県高岡市



令和×万葉  
TAKAOKA



いま高岡は万葉に燃えている

# 万葉と高岡

馬うま並なめて

洪しづ谿たにの

清きよき

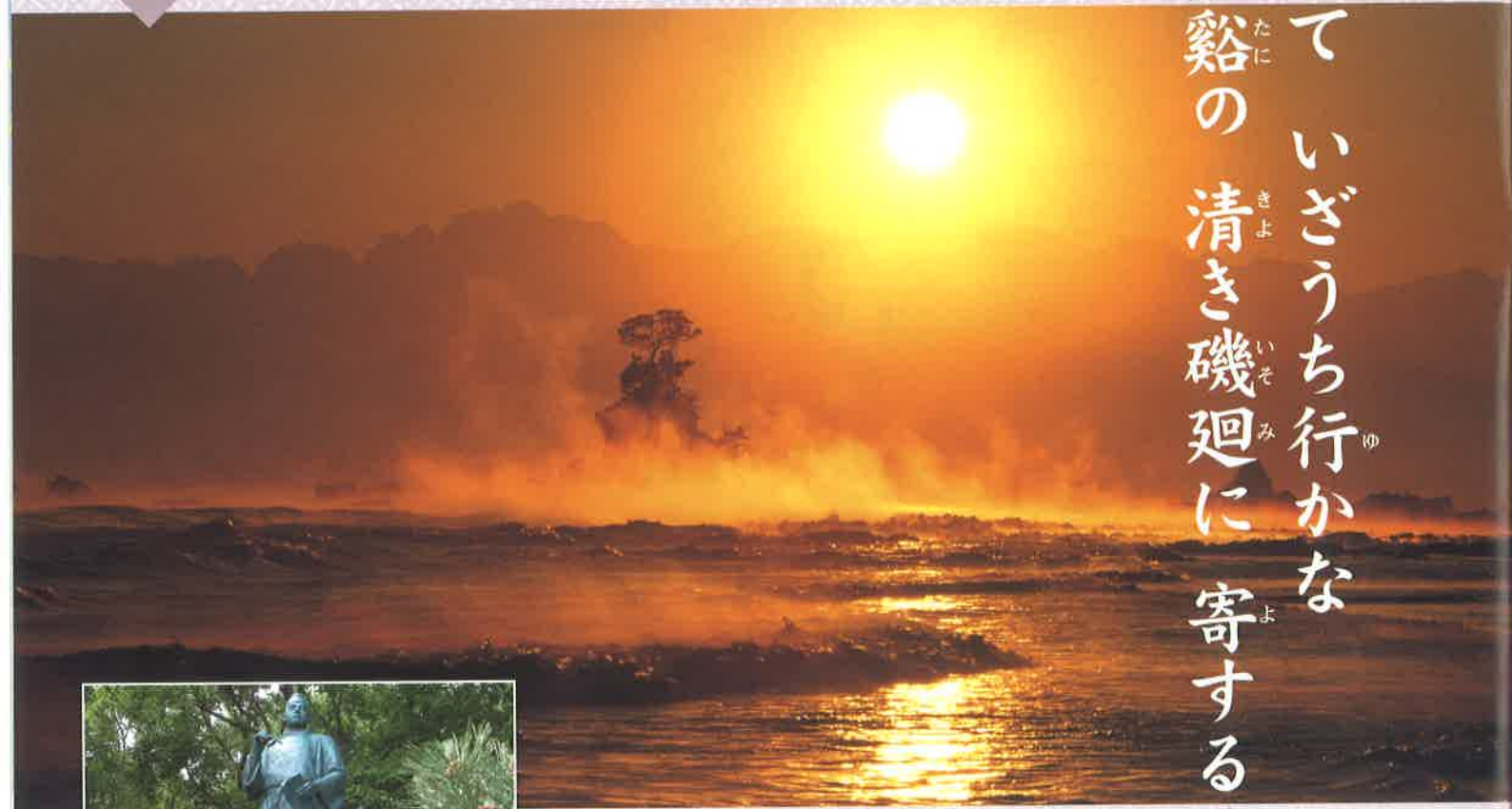
磯いそ廻みに

寄よする

波なみ見みに

(巻17・3954)

ていざうち行かな



大伴家持像(二上山)



「越中万葉かるた大会」には、毎年多くの小中学生が参加します。

## 万葉のふるさと高岡

高岡は、加賀前田家二代当主・前田利長としながによって開かれた町であり、利長の菩提寺・国宝瑞龍寺が高岡市の中心部に残っています。利長と三代当主・前田利常としつねの手厚い保護によって発展した高岡には、今も高岡銅器・高岡漆器などの伝統工芸産業が連綿と守り伝えられています。

富山湾に面した雨晴海岸からは、海越しに3,000m級の立山連峰が浮かび上がる雄大なパノラマが一望でき、かつて雄神川おみかみがわと呼ばれた庄川しやうがわの清流は数々の動植物の命を育てています。また、奈良の二上山にじやうざんと同じ名をもつ二上山ふたがみでせは、季節のうつろいと共に様々な色合いを見せてくれます。

奈良時代、この高岡市の伏木の地ふしきには、越中国えっちゅうのくに(現在の富山県と石川県能登半島)の国府が置かれていました。この国府に、わが国最古の歌集『万葉集』の代表的歌人である大伴家持おほとものやかもちが国守(現在の県知事のような職)として赴任してきたのは、天平18(746)年、29歳の時でした。家持は越中の地に5年間滞在し、美しい自然のなかで数多くの優れた歌を詠み、万葉集に残しています。

『万葉集』といえば、誰もが飛鳥あすかや奈良を思い浮かべることでしょう。しかし、『万葉集』にゆかりのある地として、この「高岡」を忘れることはできません。

ここに一つのデータがあります。『万葉集』全4,516首のうち作者の

たま  
玉くしげ  
こ系  
声の恋しき  
こひ  
二上山に  
ふたがみやま  
鳴く鳥の  
な  
とり  
時は来にけり  
とき  
き

(巻17・3987)



かたかご(カタクリ)  
高岡市の花。4月上旬に  
可憐な花を咲かせます。

もののふの 八十娘子らが 汲みまがふ  
寺井の上の 堅香子の花  
(巻19・4143)

はる その くらなみ  
春の苑 紅にほふ  
もも ぼん した ず みも い た そとの  
桃の花 下照る道に 出で立つ娘子 (巻19・4139)

あさとこ  
朝床に 聞けばはるけし  
い みづかは 朝霧に 唱ふ 船人 (巻19・4150)

いそ うへ つまよ  
磯の上の 都万麻を見れば  
ね は とし ふか かじ  
根を延へて 年深からし 神さびにけり (巻19・4159)

わかっている歌のベスト5をあげると、家持473首、柿本人麻呂91首、大伴坂上郎女84首、山上憶良76首、大伴旅人71首で家持が最多です。

家持が、『万葉集』の編纂にかかわったことはほぼ確実にあるとされ、万葉集20巻の最後を飾る新年を寿ぐ歌も彼の作品です。

世界に誇りうる『万葉集』の成立は、家持の存在と才能があったからといっても、過言ではないでしょう。

その家持の473首の歌のうち、高岡に赴任していた期間に詠まれたのが約半数の223首にものほります。また、単に歌を多く残しているというだけでなく、優れた歌を多く残しています。

このページで紹介した歌もすべてこの地で詠まれたものです。詩情をかきたてる豊かな自然と、躍動するエネルギーを持った人びとの中で暮らした越中時代は、家持の生涯において最も精彩があったとされ、彼の独創的な歌の境地を作り上げた時代ともいわれています。

家持などの万葉の歌は、高岡の多くの人々に愛され、高岡やその周辺の万葉ゆかりの地には、家持像や万葉歌碑、高岡市万葉歴史館が建てられています。高岡市では、家持の歌に詠まれた詩情豊かな自然を守りながら、「万葉」をテーマとした多くのイベントを繰り広げ、また、「万葉」に関心の深い全国の人々との交流を深めながら、「万葉のふるさとづくり」に取り組んでいます。



万葉の情報発信基地・交流の拠点

# 高岡市万葉歴史館



大伴家持・坂上大嬢像

高岡市万葉歴史館は、平成2年10月に、『万葉集』を中心テーマに据えた全国で初めての専門施設として開館しました。ここでは、『万葉集』や越中と大伴家持とのつながりなどを、楽しみながら学んでいただくことができます。

また、『万葉集』とその時代を探究するため、資料や文献などを収集・整理するとともに、自ら調査・研究を行い、それらの成果を全国の万葉研究施設と研究者に提供しています。

学習講座の開催や出版、教育普及活動なども行い、全国の万葉愛好家への情報発信基地・交流の拠点となることを目指しています。

さらに、周辺観光の拠点施設の役割を果たしており、全国各地から大勢の方々が訪れています。

## 利用のご案内

- 観覧料 一般 210円(170円) 中学生以下 無料  
[2019.10.1から] 一般 300円(240円) 中学生以下 無料  
※( )は団体20名以上 ※65歳以上の個人の方は、240円  
※特別展示等を行う場合に、別料金とする場合があります。
- 開館時間 4月～10月 午前9時～午後6時(入館は午後5時15分まで)  
11月～3月 午前9時～午後5時(入館は午後4時15分まで)
- 休館日 毎週火曜日(祝休日の場合はその翌日)  
年末年始(12月29日～1月3日)

## 交通のご案内

- 高岡駅より
  - ・JR氷見線 伏木駅下車 約1.5km(徒歩約25分)
  - ・加越能バス 古城公園口4番のりばから伏木一の宮下車 約600m(徒歩約7分)
- 能越自動車道高岡北ICより車で約20分 北陸自動車道高岡砺波スマートICから車で約35分
- 富山空港から車で約50分

## ボランティア説明員

土・日曜日、国民の祝日にはボランティア説明員「和草」が案内します。

## 所在地

〒933-0116 高岡市伏木一宮1-11-11  
☎0766-44-5511 ☎0766-44-7335  
☎http://www.manreki.com

高岡市万葉歴史館  
ホームページ



## 四季の庭

万葉ゆかりの草花や樹木などの植物が、それぞれの四季を趣き深く彩る回遊式庭園も見どころの1つです。



## 企画展示・越中国と万葉集

越中万葉や高岡を開いた加賀藩前田家ゆかりの「万葉集」、加賀藩の越中万葉研究などをパネルと展示品で解説します。





高岡万葉まつり

# 万葉集全20巻朗唱の会



家持くん



## 高岡万葉まつり

### 実施内容

- 日時 10月第1金・土・日曜日
- 場所 高岡古城公園ほか

### 申込み・問い合わせ先

〒933-8601 高岡市広小路7-50  
 高岡万葉まつり実行委員会(高岡市観光交流課内)  
 ☎0766-20-1301 ☏0766-20-1496  
 高岡万葉まつりホームページ  
 □<https://takaoka.or.jp/manyo/>



高岡万葉まつり  
ホームページ



「万葉のふるさと高岡」の代表的な行事が「高岡万葉まつり」です。長い歴史の中で、受け継がれ、培われてきた文化、芸能を結集し、市内はもとより県内外から多くの方々に参加していただくイベントです。

メインイベントは「万葉集全20巻朗唱の会」。古城の森の樹木を縫うように、鮮やかなライトの中にくっきりと浮かび上がる特設の水上舞台で、連続三昼夜にわたり『万葉集』全20巻4,516首の歌のすべてを、2,000人を超える人達がりレー方式で高らかに朗唱する一大ページェントです。

そのほか、芸能発表や万葉茶会、万葉故地めぐりの旅など多彩な万葉関連イベントが市内一円において繰り広げられます。

時を越えた熱唱・絶唱! 百人一首調、詩吟調、歌曲調、朗読調など参加者一人ひとりがそれぞれに想いを込めたドラマチックなステージは、朗唱される皆様や来場の方々を、薫り高い万葉ロマンへと誘います。



芸能発表



万葉茶会



フィナーレ朗唱





# 万葉故地

高岡市では、自然との調和を図りながら、万葉歌碑、史跡、公園など、万葉にゆかりのある歴史的文化遺産を整備しています。隣接する氷見市、射水市、小矢部市などにも万葉にちなむ歌枕がたくさんあります。

家持ゆかりの地を巡り、歌碑や詩情あふれる社寺で一服しながら、万葉の世界に浸れる文学・観光散歩をお楽しみください。

## ◆観光ボランティアをご利用ください

市内各地域の観光施設・史跡・景勝地などをご案内いたします。個人・団体問わず、旅先の案内役としてご利用ください。

- 利用日の2週間前までにお申し込みください。
- ガイド1人につき2時間まで1,000円。  
2時間を超える場合は2時間毎に1,000円追加
- 利用時間は原則午前9時～午後4時までです。

【お申し込み・詳細は】  
(公社)高岡市観光協会  
☎0766-20-1547  
☞<http://www.takaoka.or.jp/>



高岡市観光ポータルサイト  
「たかおか道しるべ」



しょうこうじ えつちゅうこくしやうあと  
**勝興寺(越中国庁跡)**

奈良時代、現在の勝興寺境内には「越中国庁」があったとされています。勝興寺は本堂をはじめ12棟もの建物が国の重要文化財となっており、平成10年から進められてきた平成の大修理によって、壮麗な姿が甦っています。



えつちゅうこくしやかんあと  
**越中国守館跡**  
(高岡市伏木気象資料館)

「東館(ひがしだち)」の小字名が残るこの場所は、貞下に射水川(現在の小矢部川)がとうとうと流れ、眼前に有磯海、雪をいただく立山の峰々を望む景勝の地であったことが、『万葉集』からうかがえます。

現在、この場所には高岡市伏木気象資料館が建っています。

えつちゅうこくぶんじあと  
**越中国分寺跡**

聖武天皇は天平13年(741年)に五穀豊穡、国家鎮護を祈願して諸国に国分寺建立の詔を出し、越中にも、現在の伏木一宮の地に国分寺が置かれました。その場所には今、小さな薬師堂と石仏が並んでいます。



ふたがみやま  
**二上山**

その名のとおり2つの峰をもつ標高274mの小高い山です。

家持は、奈良の二上山と同名のこの山を朝夕眺めて特別の感懐を持ち、都を恋しく思つての四季の変化の美しさに感動したのでしょうか、この地を題材にした名歌を残しています。

なだらかな山肌を縫って山頂をめぐる全長8.4kmの「二上山万葉ライン」には、平和の鐘、仏舎利塔、家持像、守山城跡、平和観音像等があり、自然と歴史に親しむ格好のドライブコースとなっています。



けたしんじや  
**氣多神社**

越中国一宮として崇敬を集める延喜式内社。三間社流造り、こけら葺屋根など室町時代の風格を誇ります。昭和6年に国の重要文化財に指定されています。

おおもとしんじや  
**大伴神社**

氣多神社の境内に家持御を祀るため、家持没後1200年記念して、顕彰会が中心になり昭和60年に創建されました。



しよほうに さき あまほらしかいがん まつだ えはま  
**澁谿の崎(雨晴海岸)・松太枝浜**

家持がしばしば訪れた澁谿の崎は、越中国庁跡から北へ3kmほどのところにあります。

二上山の山裾が海岸に落ち込むこのあたりは、日本海の荒波に洗われた数々の奇岩がそそり立ち、白い砂と緑の松林が続く景勝の地です。

奥州へ落ち延びる途中の義経・弁慶の主従が当地の岩陰で雨宿りをしたという伝説から、今日「雨晴海岸」と呼ばれています。

さらに、この海岸から氷見市にいたる長浜は、家持が何度も歌に詠んだ松太枝浜(松田江浜)です。



ふせ みつうみ ふせ まるやま  
**布勢の水海・布勢の円山(氷見市)**

家持らが好んで舟遊びをし、多くの歌に詠んだ布施の水海。現在ではすっかり干拓され細長く続く「十二町湯」にその昔を偲ぶのみですが、奈良時代には、遠く二上山の麓あたりまで広がっていたと思われる広大な湖でした。

ここから南西2.5kmのところに標高20mの布勢の円山があります。



たこうらふしなみじんじや  
**田子浦藤波神社(氷見市)**

石段におおいかぶさるように大きな藤の老木があり、毎年5月中旬ごろ優美な花を咲かせます。

家持は布勢の水海を遊覧したとき、咲きほこる藤の花を望み見て多くの歌を詠んでいます。

## ◆高岡へのアクセス



### 電車

東京から(北陸新幹線) 最速2時間20分

大阪から 約3時間

名古屋から 約3時間

新高岡駅

### 飛行機

東京から(羽田空港) 約1時間

札幌から 約1時間30分

富山  
きとぎと空港

### 車

東京から 約5時間

大阪から 約3時間40分

名古屋から 約3時間

高岡砺波SIC

高岡IC

## ◆高岡市内マップ



## ◆お問い合わせ

高岡市役所

〒933-8601 富山県高岡市広小路7-50

文化創造課 ☎0766-20-1452

観光交流課 ☎0766-20-1301

高岡市公式ホームページ「ほっとホット高岡」

☐<http://www.city.takaoka.toyama.jp/>



(公社)高岡市観光協会

〒933-0029 富山県高岡市御旅屋町101

御旅屋セリオ7階

☎0766-20-1547

高岡市観光ポータルサイト「たかおか道しるべ」

☐<http://www.takaoka.or.jp/>



高岡市万葉歴史館

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮1-11-11

☎0766-44-5511

高岡市万葉歴史館ホームページ

☐<http://www.manreki.com/>

万葉歌碑巡りマップ

☐<https://www.manreki.com/arekore/imaman/imaman-top.html>

